

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。



東京オリンピック」と口に出来ない不自由さ

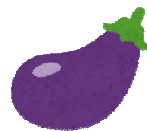
長引くコロナ禍にあって、今夏に予定されている東京オリンピックの話題にも熱が入って良い時期なのですが、当社ではそう簡単に華やかな話は出来ないのです。実は、昨年3月24日に延期が決まった時、私ども東葉警備保障では関連施設の周辺警備や、最寄り駅、会場までの入場ルート上の警備にエントリーすることで世紀のイベントに関りをもつことがほぼ決定していたのです。

そのために最も苦心したのが警備士を集めることでした。折からの人手不足で日給18,000円の好条件で求人をかけても思うように人数を確保できません。その時少なからず足枷になったのが「東京オリンピック」「東京2020」「東京五輪」といった文言を求人広告に載せることが許されなかったことです。

大手求人広告会社もスポンサー契約企業になった経験があるのでしょうか。オリンピックをイメージできる写真の掲載すら認めない徹底ぶりです。

仕方なしに「国際的スポーツ大会のお仕事」「今夏予定の大型スポーツイベントのサポーター」などと陳腐な求人コピーに腐心する羽目になりました。ただでさえ求人難の時に、どこで何をするのか不明な求人広告に頼らざるを得ない不自由さを嘆きつつも、今年もこれから3月末にかけて1年前と同じ人集めに取り組む準備を進めています。

現在採用活動中の2021年3月卒業、4月入社の新卒入社組には東京オリンピックの関連業務にたずさわってもらいます。コロナ禍のオリンピックではアスリートの活躍もさることながら、大会運営を支える企業とその社員、ボランティアの存在にもスポットライトが当たって欲しいと思うのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。「今年も若草色の封筒を待っています。」と年賀状をくださった先生がいっぱいます。SNSに負けない交流が出来ることに感激しました。本年も当社とともどもよろしくお願い申し上げます。

松本 隆一郎